

提出者 楊洋
提出年月日 2014 年 7 月

【プロジェクト名】

和文 多元的な視野のなかの漢籍文化史

英文 Multiple Perspectives on the Cultural History of Chinese Ancient Books

【メンバー構成】

研究代表者 楊 洋

共同研究者 蕭 振豪

顧問 平田 昌司 教授

【研究のねらいと目的】 (600 字程度)

近年東アジアの人文科学領域に盛んとなった「漢籍研究」は、東アジア各国に伝播した中国古代の書籍を中心とする研究である。21 世紀に入ってから「漢籍研究」はいつそう研究者の関心を引き、多くの成果が現れ、中国で専門的な研究機関も設立された。

国境を超えた漢籍は、中国文化の延長線にあるのみならず、東アジア各国の歴史・文化にも緊密に繋がっている。本研究は、東アジア各国それぞれの異なる歴史的な文脈から、また様々な専門分野から、漢籍文化史を考察するものである。日本・中国・韓国で大量に保存されている漢籍を基盤とし、各国で伝わってきた漢籍ごとの異なる個性に配慮し、多元的な文化視野をもって研究を行うことこそ本研究の特色である。本研究と関連する先行研究の中には、多元的な文化視野が欠如することによって、研究の価値や信憑性が大きく損われている事例が屡々見られる。本研究は、学界の先行業績を利用した上で、異なる専門分野から若い研究者を招いた研究会を開催し、相互に刺激し合うことによって、「漢籍文化史」の学理を発展させることをめざす。

【活動の記録】**1. 2013 年 11 月 15 日 京都大学附属図書館共同研究室**

公開セミナー「唐王朝鈔本文化與東亞世界管窺二題：以『科舉教科書』及『高句麗情報書』為中心」

講師：童嶺（南京大学文学院准教授、南京大学人文社会科学高級研究院駐院学者、域外漢籍研究所研究員）、顧問：平田昌司（京都大学文学研究科教授）、協力者：楊洋、蕭振豪

2. 2014 年 3 月 13 日 京都大学楽友会館

ワークショップ「多元的な視野のなかの漢籍文化史」

顧問：平田昌司教授、発表者（発表順）：楊洋（京都大学 DC）、成田健太郎（京都大学 OD）、陳健成（東京大学 DC）、蕭振豪（京都大学 DC・日本学術振興会特別研究員）、佐藤礼子（京都大学 OD）、余佳韻（台湾国立清華大学）、Michella Wing Sze CHIU（Princeton University DC）、許美祺（北京大學 DC）、錢雲（復旦大學 DC）

プログラム

0900-0930 開会式

0930-0945 休憩

第一部会 漢籍と学問の受容

0945-1020 定着できないテキスト：書籍受容と講習のコンテクストに位置づける日本中世の漢籍鈔

本 楊 洋

講評者：陳 健成

1020-1055 張懷瓘『書斷』の史料利用と通俗書論 成田 健太郎

講評者：楊 洋

1055-1130 藤原惺窩の読書とその学問の形成 陳 健成

講評者：成田 健太郎

第二部会 漢籍としての文学研究

1330-1405 文献学方法論としての詩律研究：平安・鎌倉時代の資料を中心に 蕭 振豪

講評者：余 佳韻

1405-1440 別生経と唐代伝記 佐藤 礼子

講評者：蕭 振豪

1440-1515 陳澧の詞学観・文学研究を再検討——新発見鈔本をめぐって 余 佳韻

講評者：佐藤 礼子

第三部会 漢籍から見た「他者」

1525-1600 The Soul in Medical Texts: The Transmission of Anatomy and Religion in China and Japan
Michella Wing Sze CHIU

講評者：許 美祺

1600-1635 《海國圖志》與日本幕末實學 許 美祺

講評者：錢 雲

1635-1710 宋代有關外國書籍初探 錢 雲

講評者：Michella Wing Sze CHIU

1710-1720 休 憩

1720-1750 ディスカッション

1830~懇親会

【成果の概要】

本研究は、計画に沿って、公開セミナーと国際ワークショップを開催した。

2013年11月15日に京都大学人文科学研究所訪問中の南京大学文學院の童嶺准教授を招き、公開セミナー「唐王朝鈔本文化與東亞世界管窺二題：以「科舉教科書」及「高句麗情報書」為中心」を開催した。童教授は日本に伝わってきた『文選集注』と『翰苑』の古鈔本を中心とし、公元9世紀頃の日本漢籍鈔本が反映した中国乃至東アジアの學問と文化を語られた。文学研究科・人間環境学研究科・人文科学研究所の先生方を始め、多くの方々が来聴した。

2014年3月13日に京都大学・東京大学・北京大学・復旦大学・台湾清華大学・プリンストン大学のDC・OD合計9人を集め、ワークショップ「多元的な視野のなかの漢籍文化史」を開催した。参加者たちは文献学・言語学・文学・思想史・医学史などの専門研究を踏まえ、多元的な文化観・知識観から漢籍文化史の課題を検討して発表した。講評・ディスカッションの時間には、質の高い質問が屢々現れ、批判的な意見も多くに述べられた。ワークショップによって発表者各々の研究が向上することを達成した上で、実質の有る学術交流が実現した。

本プロジェクトの成果は、潜在的可能性をもつ若い研究者を国内外から招き、公開的な学術イベントを催すことによって、若手研究者のなかに「漢籍文化史」への関心を引き、「漢籍文化史」の研究を深化させたことと言える。

童嶺准教授により公開セミナー「唐王朝鈔本文化與東亞世界管窺二題：以「科舉教科書」及「高句麗情報書」為中心」



ワークショップで余佳韻氏の発表



ワークショップ「多角的な視野のなかの漢籍文化史」参加者全員



【研究業績】

「多角的な視野のなかの漢籍文化史」成果報告書
(京都大学アジア研究教育ユニット ワーキングペーパー1)

【通信欄】

ホームページ

https://www.facebook.com/kanseki2013?ref_type=bookmark

